

**文京区こども宅食プロジェクト
第6期（2022.10～2023.9）
インパクト・レポート
評価結果詳細**

**2024年7月
文京区こども宅食コンソーシアム**

目次

1. ニーズ評価詳細	3
1-1. 利用世帯の生活困難度の状況	3
(1) 利用世帯の生活困難度状況まとめ.....	4
(2) 要素1：低所得基準に該当する世帯の数.....	5
(3) 要素2：家計の逼迫.....	6
(4) 要素3：子どもの体験や所有物の欠如.....	8
2. アウトカム評価・インパクト評価詳細	10
2-1. 指標と測定方法	10
2-2. 評価結果まとめ	11
(1) ロジックモデル.....	11
(2) 一覧.....	12
2-3. 評価結果の詳細	14
直接アウトカム（1）食事内容、食に関する課題が改善される.....	14
直接アウトカム（2）心理的ストレスが減少する.....	15
直接アウトカム（3）余剰時間が増加する.....	17
直接アウトカム（4）食費の負担が軽減される.....	20
直接アウトカム（5）社会資源を知っている、利用している.....	22
中間アウトカム（1）家族の関係がよりよくなる.....	23

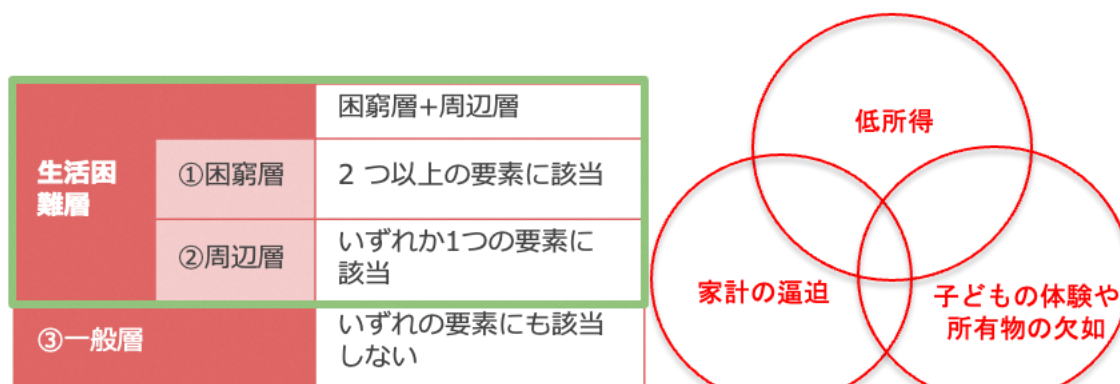
1. ニーズ評価詳細

1-1. 利用世帯の生活困難度の状況

文京区こども宅食プロジェクトでは、**利用世帯の実態と取り組みの妥当性・適切性**を確認するために、「**生活困難度**」指標を使って定期的に宅食利用世帯の困難度を多角的に検証している。

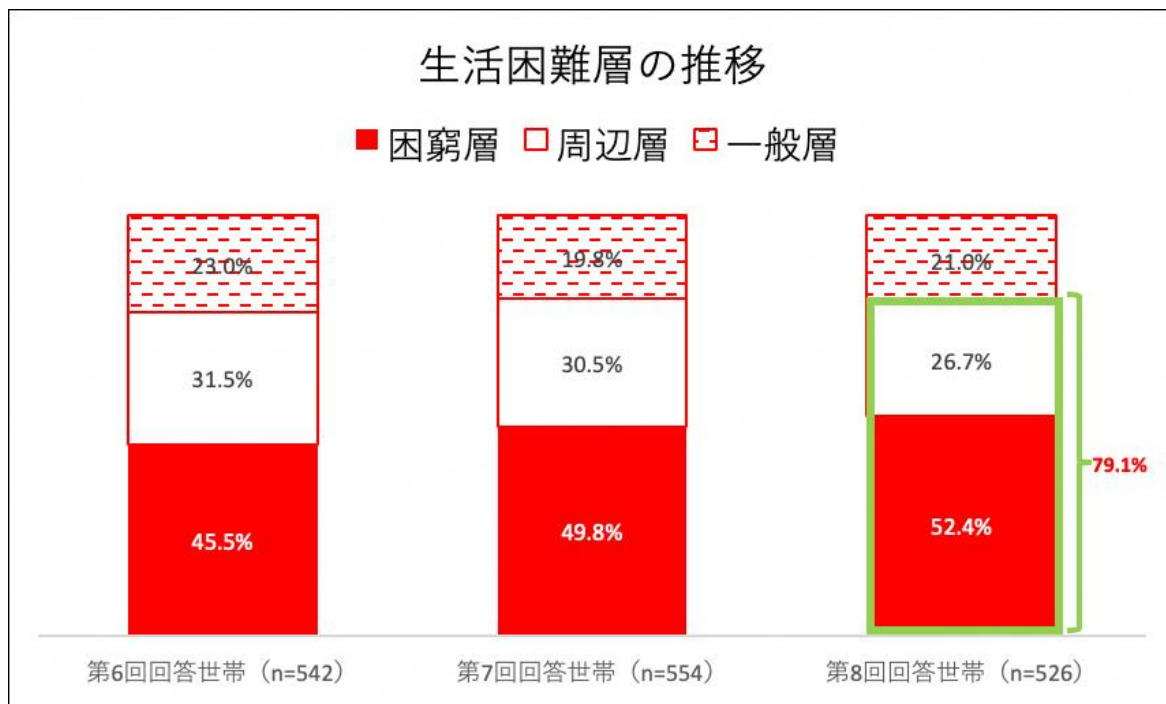
第8回アンケート調査に回答した526世帯のデータを **低所得、家計の逼迫、子どもの体験や所有物の欠如**、の3つの要素に基づき、①困窮層、②周辺層、③一般層の3つに分類した結果は以下のとおりである。

◇生活困難の分類方法と要素◇



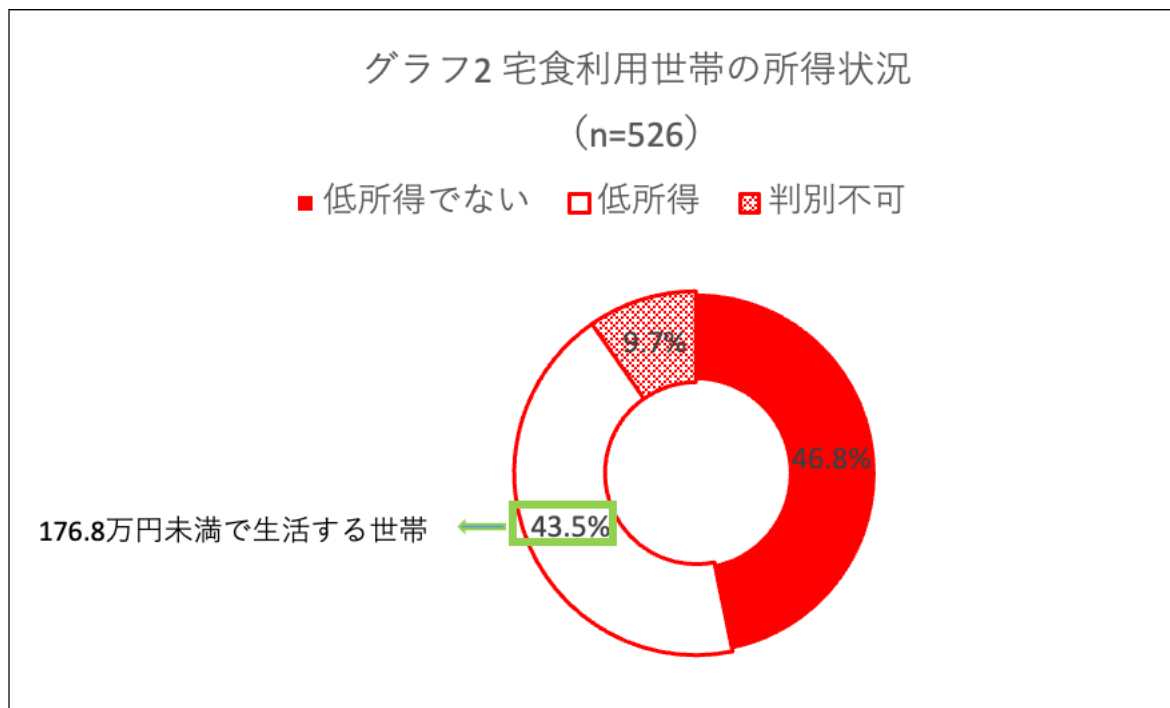
(1) 利用世帯の生活困難度状況まとめ

回答世帯の約80%（未回答などの欠損値を除いた数値）が生活困難層（①困窮層+②周辺層）に該当している。調査開始後初めて、①困窮層が50%を超えており、利用者の困難度が高まっていると考えられる。



(2) 要素1：低所得基準に該当する世帯の数

子ども宅食の利用世帯を東京都調査で用いられている低所得基準[※]にて分類してみると、**利用世帯の43.5%（判別不可を除くと48.2%）が等価世帯所得^{**}176.8万円以下の低所得基準に該当している。**前回の調査（43.7%）とほぼ同水準であった。



※等価世帯所得^{**}が厚生労働省「2019年国民生活基礎調査」から算出された基準（下記参照）未満の世帯を低所得としている（所得は2018年のもの）。

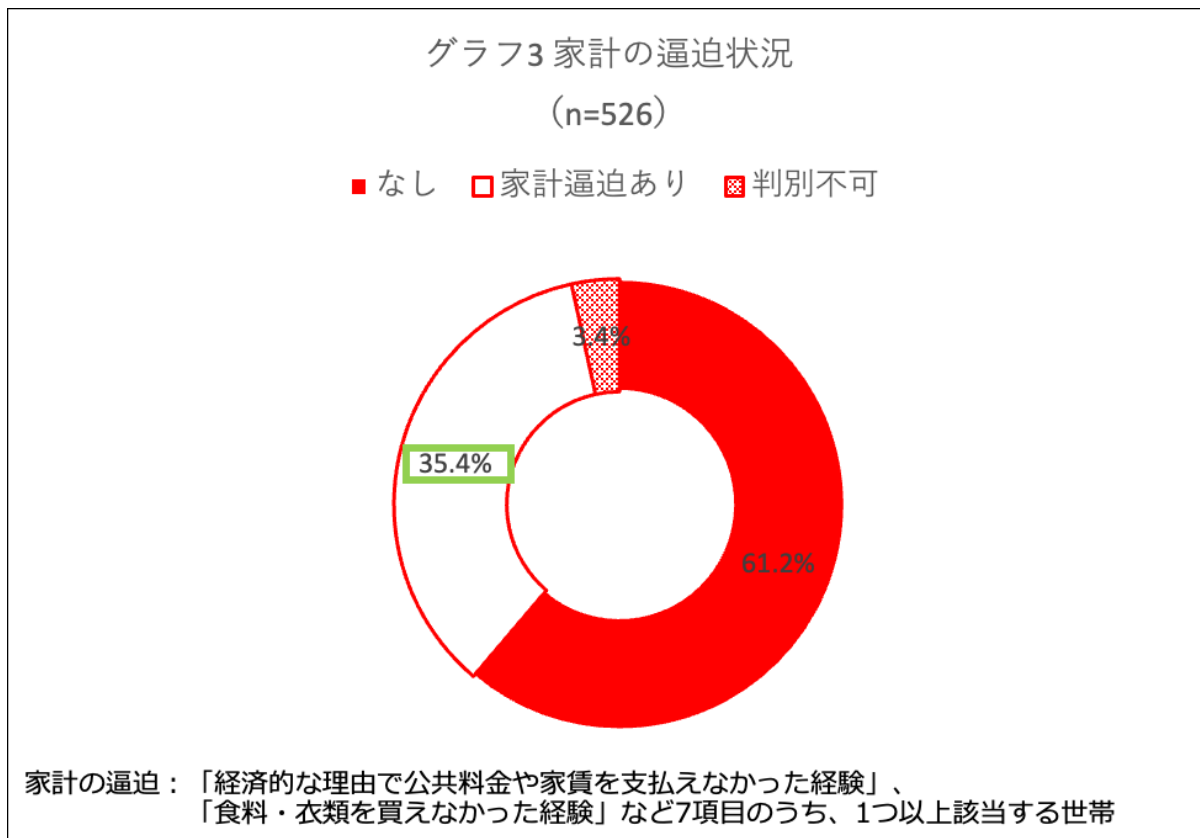
直近の国民生活基礎調査は2021年（所得は2020年のもの）発表であるが、2021年はコロナ対策による緊急給付金などが多く、貧困線が通常よりも高くなっており、比較として適切ではないと判断。そのため、2019年調査を使用している（2020年調査は実施されていない）。

^{**}等価世帯所得（公的年金など社会保障給付を含めた世帯所得）を世帯人数の平方根で割って調整した所得<基準>

世帯所得の中央値（552.3万円）÷平均世帯人数（2.44人）の平方根×50%=176.8万円（東京都立大学 阿部教授算出）

(3) 要素2：家計の逼迫

家計の逼迫がある世帯は回答世帯の**35.4%**にあたり、前回（32.1%）よりも増加した。



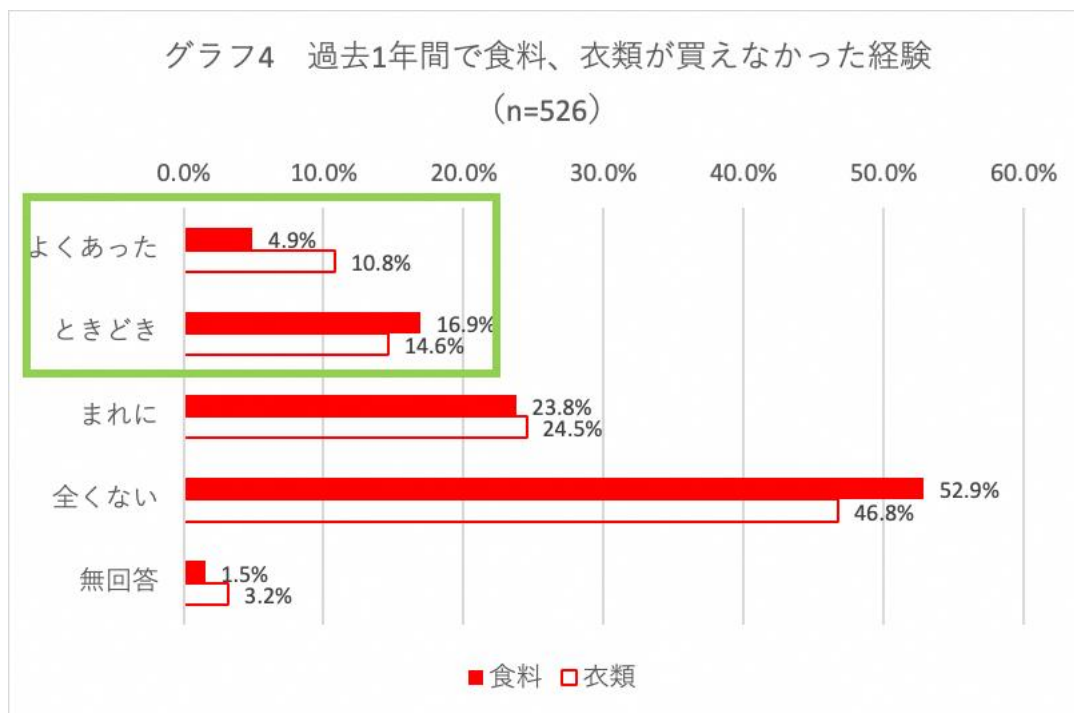
過去1年間で支払えなかった公共料金を各項目別に見ると、家計の逼迫の指標に含まれる項目の中で最も割合が高いのは**家賃（10.7%）**で次に**電話、電気（10.3%）**となっている。複数の項目で前回よりも割合が高まっており、利用世帯の経済的困窮の高まりが懸念される。

過去1年間で公共料金や家賃を支払えないことがあった経験のある人の割合

	第8回回答世帯 (n=526)	第7回回答世帯 (n=554)
電話	10.3%	10.2%
電気	10.3%	9.5%
ガス	9.3%	7.7%
水道	7.6%	6.6%
家賃	10.7%	9.3%
住宅ローン*	1.2%	2.7%
その他の債務*	10.5%	10.2%

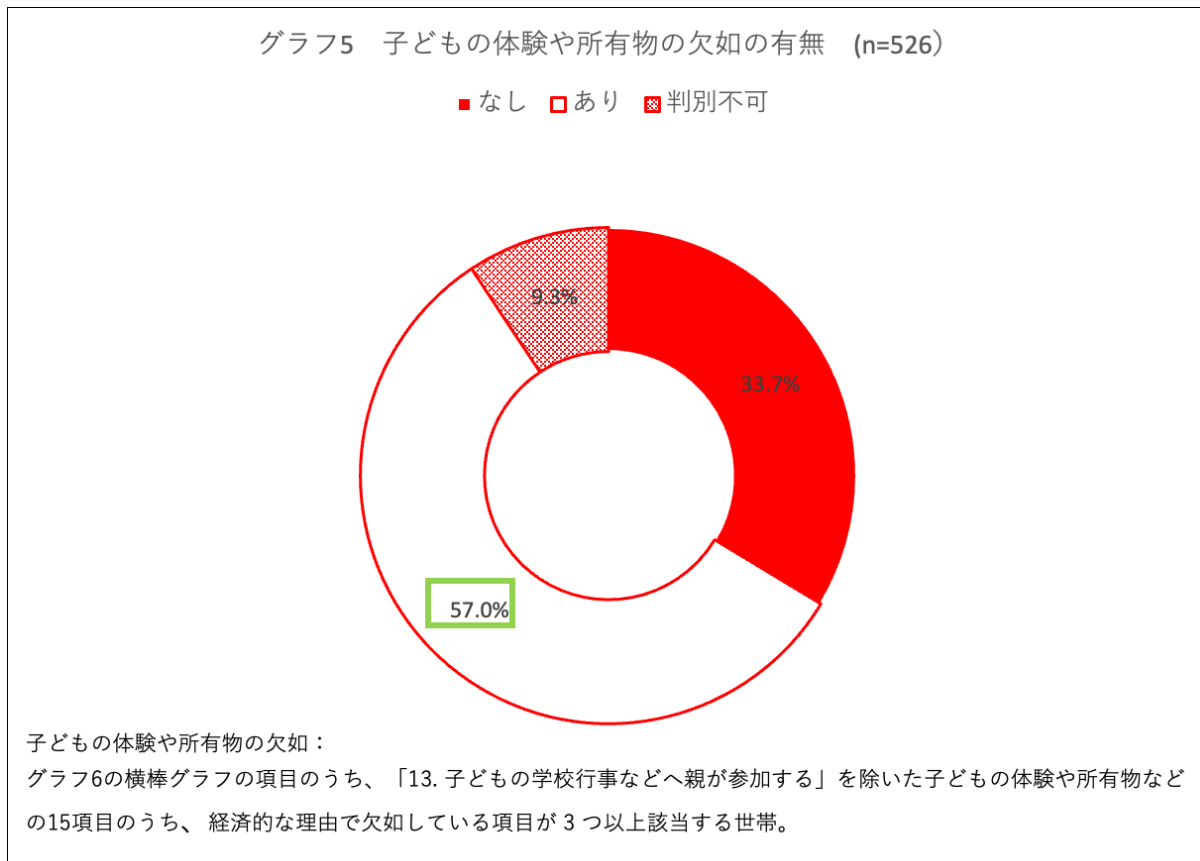
*家計の逼迫の指標には含まれていない。

●過去1年間で経済的な理由により、21.8%が食料が買えなかった経験、25.4%が衣類が買えなかった経験がある（「よくあった」、「ときどき」の合計）。この割合も前回は上回る結果となった。

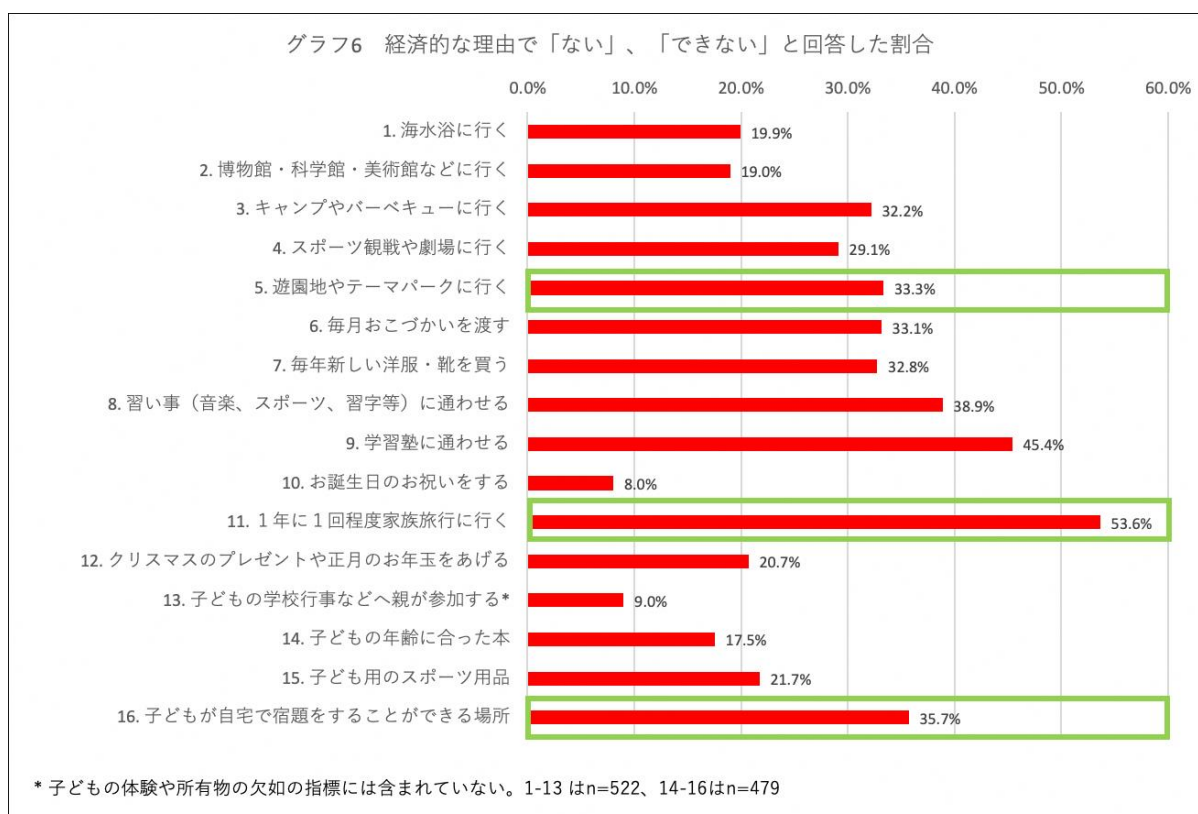


(4) 要素3：子どもの体験や所有物の欠如

経済的な理由により、利用世帯の57.0%に子どもの体験や所有物の欠如がある（前回は56.3%）。



- 体験（項目1～5）においては「遊園地やテーマパークに行く」ことが「ない」世帯が最も多く、33.3%に上る。
- 支出（項目6～13）においては「1年に1回程度家族旅行に行く」ことが「ない」世帯が最も多く、53.6%に上る。
- 所有物（項目14～16）においては「子どもが自宅で宿題をすることができる場所」が「ない」世帯が最も多く、35.7%に上る。



2. アウトカム評価・インパクト評価詳細

2.1 指標と測定方法

アウトカム評価、インパクト評価を実施するために、以下のとおり、アウトカムごとに指標、測定方法を設定した。

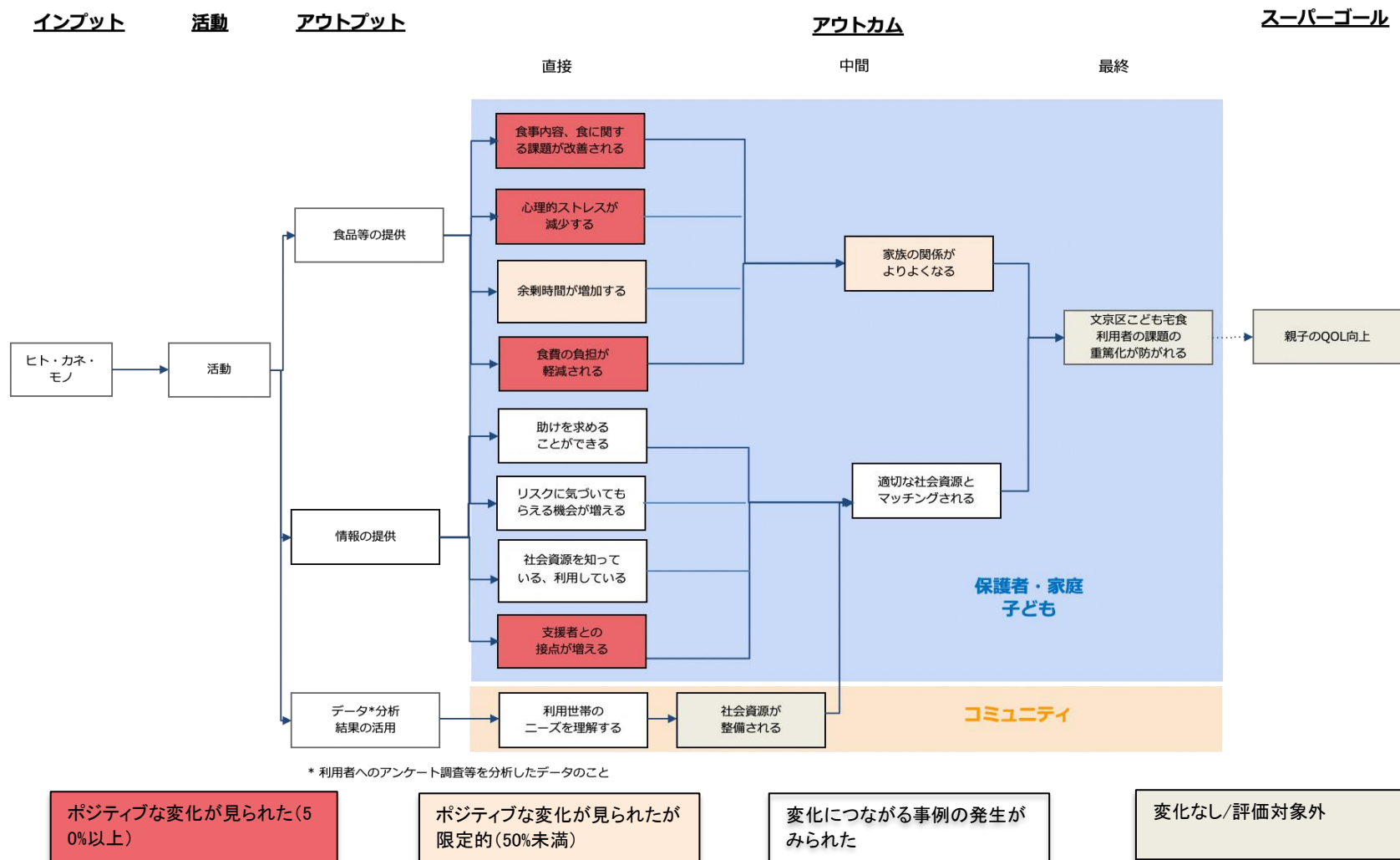
※灰色の箇所は評価対象外

アウトカムの種類	アウトカム	ステークホルダー	指標（判断基準）	測定方法	アンケート調査 該当設問
スーパーゴール	親子のQOLの向上	保護者・家庭、子ども			
最終アウトカム (上位目的)	文京区子ども宅食利用者の課題の重篤化が防がれる	保護者・家庭、子ども	課題を抱える人の状況の悪化が防がれる。	第8回利用世帯アンケート調査	・現在の生活や子育ての中での困りごとについて、ご家庭の状況についてあてはまるものをお選びください。 ・生活困難度調査に関わる設問
中間アウトカム	家族の関係がより良くなる	保護者・家庭、子ども	家族関係の変化	第8回利用世帯アンケート調査	子ども宅食利用前と現在を比較して、あなたと家族（子どもやパートナーなど）の関係に変化はありましたか
直接アウトカム	食事内容、食に関する課題が改善される	保護者・家庭、子ども	家庭の食事内容 食事に関する課題の変化	第8回利用世帯アンケート調査	・ご家族の食に関する課題として感じているものを選択してください。 ・子ども宅食の利用前と現在を比較して、ご家庭の食事内容に変化はありましたか。
	心理的ストレスが減少する	保護者・家庭、子ども	保護者の精神状態の変化 保護者の気持ちの変化 子どもの態度の変化	第8回利用世帯アンケート調査 第8回利用世帯アンケート調査 第8回利用世帯アンケート調査	K6指標（「こころの健康」をチェックする指標）【設問内容は第8回アンケート問12を参照】 子ども宅食の支援を受ける前と後での気持ちの変化についてお答えください。また、その変化は子ども宅食の利用が影響していると思えますか。 子ども宅食の利用前と現在を比較して、お子さんの態度に変化はありましたか。
	余剰時間が増加する	保護者・家庭、子ども	保護者の宅食によって節約できた時間 節約できた時間を利用してできたこと 節約できた時間が子どものために使われているか	第8回利用世帯アンケート調査	子ども宅食を利用したことにより、これまで買い物や調理に使っていた時間が減るなどして一か月のあいだに自由な時間は増えましたか。 その時間を利用して何かできたことはありますか。
	食費の負担が軽減される	保護者・家庭、子ども	節約できた金額 節約できた金額によって何ができたか	第8回利用世帯アンケート調査	・子ども宅食が提供する「体験の機会」を利用したことはありますか。 ・「体験の機会」を利用したことによる、お子さんやご家族の変化についてお答えください。
	中間アウトカム	適切な社会資源とマッチングされる	保護者・家庭、子ども	相談相手（場所）の有無（「相談相手がおらず、ほしい」という人の割合の減少） 子ども宅食をきっかけにした支援やサポートへの接続	第8回利用世帯アンケート調査 コンソーシアム活動全般
直接アウトカム	利用世帯のニーズを理解する	コミュニティ	コンソーシアムへの問い合わせ等 コミュニティからの支援の増加（寄付など）	コンソーシアム活動全般	(アンケート調査該当設問はなし)
	社会資源が整備される	コミュニティ	子ども宅食がきっかけとなり、利用者の生活圏域に新たな支援サービスや機会などが生まれる	コンソーシアム活動全般	(アンケート調査該当設問はなし)
	支援者との接点が増える	保護者・家庭、子ども	宅食の手渡し率の増加 配達時の開わり方の変化 オンライン等での利用者とのコミュニケーションの回数の増加 オンライン等での利用者とのコミュニケーション内容の変化	コンソーシアム活動全般	(アンケート調査該当設問はなし)
	リスクに気づいてもらえる機会が増える	保護者・家庭、子ども	利用者からの援助希望回数利用者からの自発的なコミュニケーションの増加（相談・雑談など）	コンソーシアム活動全般	・子ども宅食のLINEで個別の相談・問い合わせをしたことがありますか。 ・子ども宅食では、暮らしや子育てににくい、専門的な資格のあるチャット相談スタッフにLINEで気軽に相談ができます。
	助けを求めることができる	保護者・家庭、子ども	利用者からの援助希望回数利用者からの自発的なコミュニケーションの増加（相談・雑談など）	コンソーシアム活動全般	チャット相談スタッフに相談したいことなどがありましたら個別にLINEにてご連絡させていただきます。チャット相談スタッフからの連絡を希望しますか。
	社会資源を知っている、利用している	保護者・家庭、子ども	支援サービスを知っている、利用している割合の変化	第8回利用世帯アンケート調査 利用者満足度調査	あなたはこれまでに以下のサービスや窓口を利用したことはありますか。 子ども宅食事務局からLINEにて、様々なお役立ち情報をお届けしてきました。お役立ち情報を見てからのご自身の行動としてあてはまるものを全て選んでください。

※実際のアンケート設問は「文京区子ども宅食アンケート調査票」を参照

2.2 評価結果まとめ

(1) ロジックモデル



(2) 一覧

※灰色の箇所は評価対象外

アウトカムの種類	アウトカム	ステークホルダー	指標（判断基準）	測定方法	結果・進捗	詳細ページ
スーパーゴール	親子のQOLの向上	保護者・家庭、子ども				-
最終アウトカム (上位目的)	文京区子ども宅食利用者の課題の重篤化が防がれる	保護者・家庭、子ども				-
中間アウトカム	家族の関係がより良くなる	保護者・家庭、子ども	家庭環境、生活環境の状況・変化	第8回利用世帯アンケート調査	・家庭、生活環境においては、困難の度合いが最も高い、「困窮層」が調査開始以来初めて50%を超えた。利用者の困窮度が高まっている恐れがある。物価高騰が続いていることによる家計への影響も大きいことが伺われる。 ・生活における困りごとにおいては、約46%が宅食の利用により食費の負担が改善されたと回答している。	pp.3-9
			家族関係の変化	第8回利用世帯アンケート調査	宅食利用前との比較で、約44%が「家族との関係」が良くなったと回答している。親の気持ち、子どもの態度の変化が影響していると考えられる。	p.23
直接アウトカム	食事内容、食に関する課題が改善される	保護者・家庭、子ども	家庭の食事内容、食に関する課題の変化	第8回利用世帯アンケート調査	・約72%が食事内容に変化が見られたと回答している。具体的には、「間食ができるようになった（27.2%）」、「食事の品数が増えた（26.1%）」を挙げる人が多い。 ・食の課題として回答者の約48%が「栄養バランスがよくない、偏りがある」、「食事の品数が少ないと感じている」。	p.14
	心理的ストレスが減少する	保護者・家庭、子ども	K6指標	第8回利用世帯アンケート調査	回答者の約35%が精神的な不調を感じている。比率としてはこれまでと大きな変化はない。	-
			保護者の気持ちの変化	第8回利用世帯アンケート調査	保護者の気持ちについて、宅食の利用前後での変化量を見たところ、「安心して生活できている（40.8%UP）」、「社会とのつながりを感じる（39.1%UP）」、という回答が多く、宅食の利用が気持ちの変化に影響していることが伺える。	p.15
			子どもの態度の変化	第8回利用世帯アンケート調査	約49%が子どもの態度に変化ありと回答している。具体的には「笑顔が増えた（27.6%）」、「会話が增えた（19.1%）」という回答が多い。	p.16
	余剰時間が増加する	保護者・家庭、子ども	保護者の宅食によって節約できた時間 節約できた時間を利用してできたこと 節約できた時間が子どものために使われているか	第8回利用世帯アンケート調査	・約41%の人が宅食の利用により時間を節約できたと回答している（平均節約時間：28分）。 ・時間が節約できたことで、「休息をとることができるようになった（60.4%）」、「子どもと過ごす時間が増えた（43.9%）」と回答した人が多い。	pp.17-18
体験の時間の変化			第8回利用世帯アンケート調査	・回答者の約60%が本プロジェクトが提供している「体験の機会」を利用したことがある回答している。 ・利用した世帯に子どもや家族の変化について聞いたところ、「子どもにとって新しい経験・体験ができた（59.3%）」、「家計の負担が軽減された（43.6%）」という回答が多かった。	p.19	
食費の負担が軽減される	保護者・家庭、子ども	節約できた金額 節約できた金額によって何ができたか	第8回利用世帯アンケート調査	・約70%の人が宅食の利用により食費を節約できたと回答している（平均節約金額：3,351円）。 ・食費が節約できたことで、「生活に必要なものにあてた（53.8%）」、「他の食品を買った（47.5%）」と回答する人が多い。 ・普段購入しない、嗜好品や少し高価なものを購入することができたという回答も多く、それが気持ちの豊かさや、安心感など、気持ちの変化にもつながっている様子も伺える。	pp.20-21	

ポジティブな変化が見られた(50%以上)

ポジティブな変化が見られたが限定的(50%未満)

変化につながる事例の発生がみられた

変化なし/評価対象外

直接アウトカム	利用世帯のニーズを理解する	コミュニティ	コミュニティからの問い合わせ数が増加する（関係団体からの協力依頼など） コミュニティからの支援の増加（寄付など）	コンソーシアム活動全般	利用者への情報提供等で、関係団体との連携が進んでいる。 文京区民や文京区所在の企業などからの寄付や「体験の機会」の寄付が増えている。	— インパクト・レポート概要版p.23
	社会資源が整備される	コミュニティ	こども宅食がきっかけとなり、利用者の生活圏域に新たな支援サービスや機会などが生まれる	コンソーシアム活動全般		—
	支援者との接点が増える	保護者・家庭、子ども	宅食の手渡し率の増加 配送時の関わり方の変化 オンライン等での利用者とのコミュニケーションの回数の増加 オンライン等での利用者とコミュニケーション内容の変化	コンソーシアム活動全般	・見守りを強化すべく、手渡し率の増加に努めた結果、前を上回る約73%を達成した。冷凍食品の配送や古本（絵本）の手渡し寄付などを通じて、利用者の実感確認の頻度の増加と多面化を図った。 ・「体験の機会」の提供を活用した利用者とのコミュニケーション機会の多面化なども試みている。	インパクト・レポート概要版p.34
	リスクに気づいてもらえる機会が増える	保護者・家庭、子ども	利用者の実感確認頻度の増加と多面化	コンソーシアム活動全般	これまでの活動に加え、配送前後の丁寧な連絡や、「体験の機会」の提供による接点の確保により、利用者の実感確認頻度の増加と多面化を図っている。	—
	助けを求められることができる	保護者・家庭、子ども	利用者からの援助希求回数の増加 利用者からの自発的なコミュニケーションの増加（相談・雑談など）	コンソーシアム活動全般	利用世帯からのニーズが高い情報を中心に、プッシュ型の情報配信を積極的にすすめることで、利用者からの援助希求回数の増加がみられており、情報配信をきっかけに利用者からの自発的な相談や不安、悩みごとの吐露につながるケースも生まれている。	インパクト・レポート概要版p.33
	社会資源を知っている、利用している	保護者・家庭、子ども	支援サービスを知っている、利用している割合の変化	第8回利用世帯アンケート調査		p.22
				利用者満足度調査他	・本プロジェクトのLINEでの情報配信を受けて、「実際に制度やサービスに申し込んだ（35.6%）」、「見て利用を検討した33.0%）」と回答する人が多く、社会資源へのアクセスや利用につながっていることが伺われる。 ・宅食からの情報提供により、実際に地域資源を活用する事例も生まれてきている（例：制服・学用品リサイクルショップや古本屋の利用）。	

ポジティブな変化が見られた(50%以上)

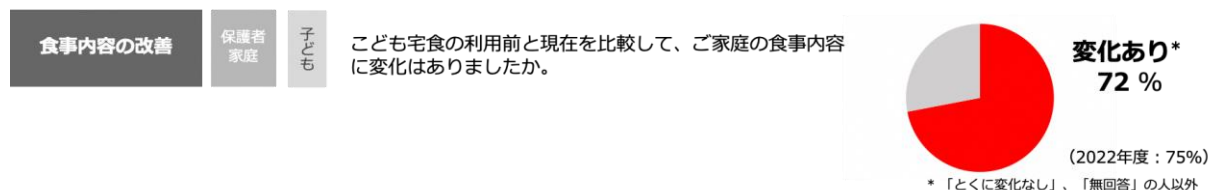
ポジティブな変化が見られたが限定的(50%未満)

変化につながる事例の発生がみられた

変化なし/評価対象外

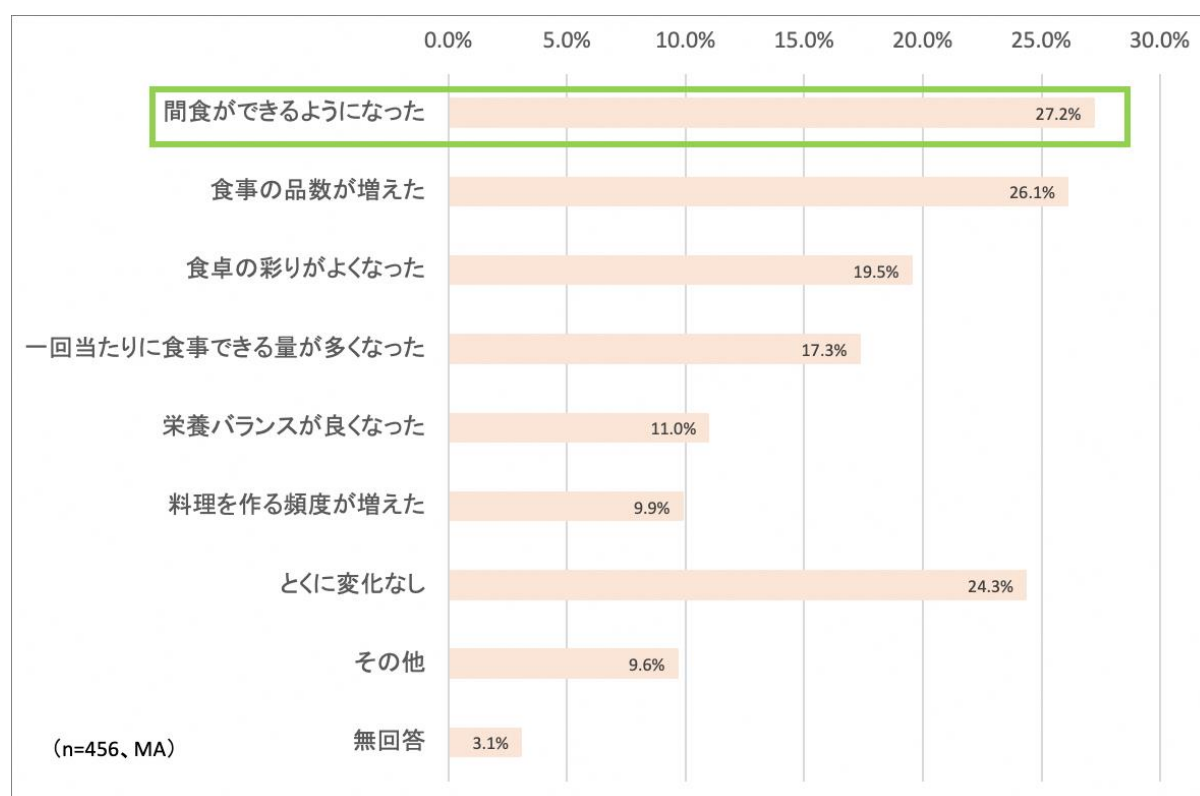
2.3 評価結果の詳細

直接アウトカム（1）食事内容、食に関する課題が改善される



約72%が食事内容に変化が見られたと回答している。

具体的には「**間食ができるようになった（27.2%）**」、「**食事の品数が増えた（26.1%）**」を挙げる人が多い。



「その他」の回答例：

- 使った事のない食品を試せることなどでヒントが得られた。
- お弁当に入れるおかずを増やせました。

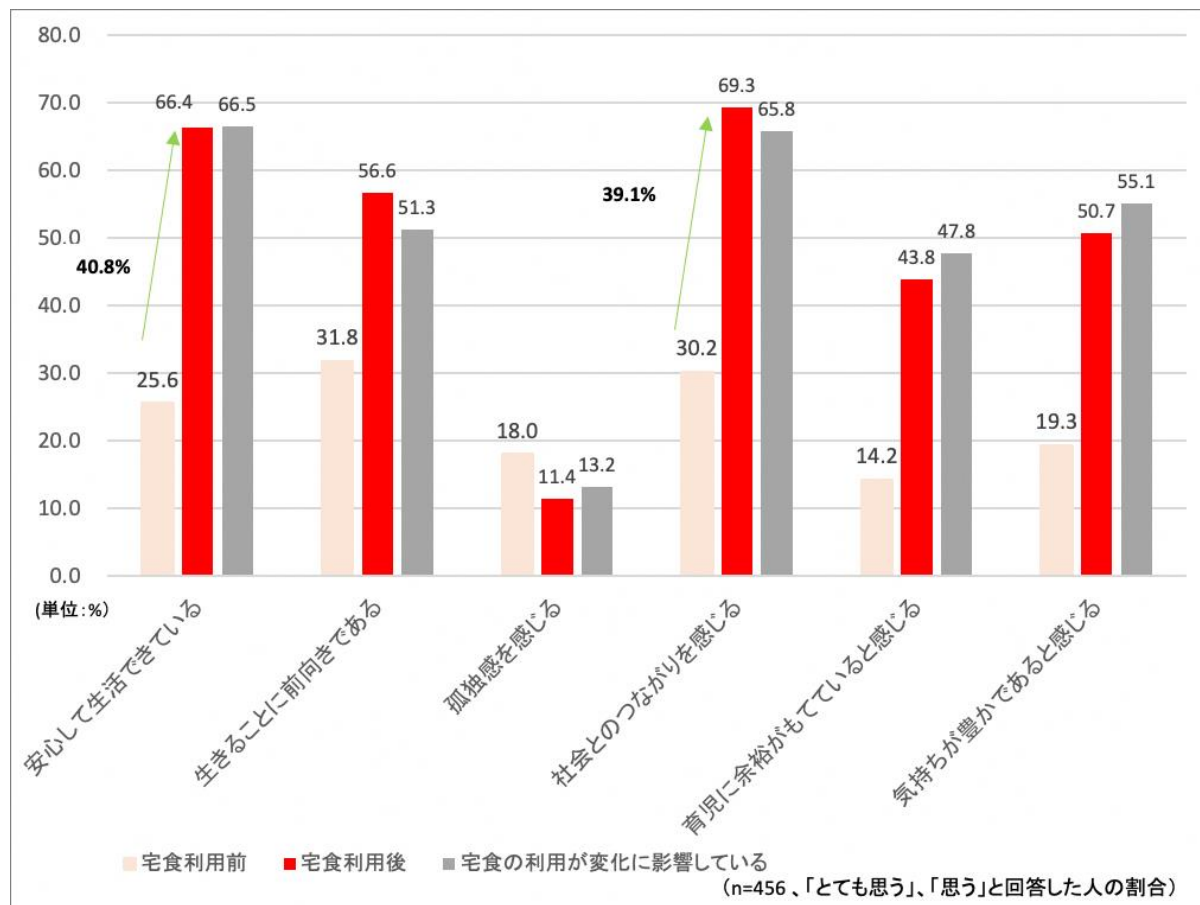
直接アウトカム（2） 心理的ストレスが減少する

精神状態の改善

保護者
家庭

こども宅食の支援を受ける前と後でのあなたの気持ちの変化についてお答えください。

保護者の気持ちについて、宅食の利用前後での変化量の差をみたところ、「安心して生活できている（40.8%UP）」、「社会とのつながりを感じる（39.1%UP）」、という回答が多く、宅食の利用が気持ちの変化に影響していることが伺える。



こども宅食の利用前と現在を比較して、お子さんの態度に変化はありましたか。

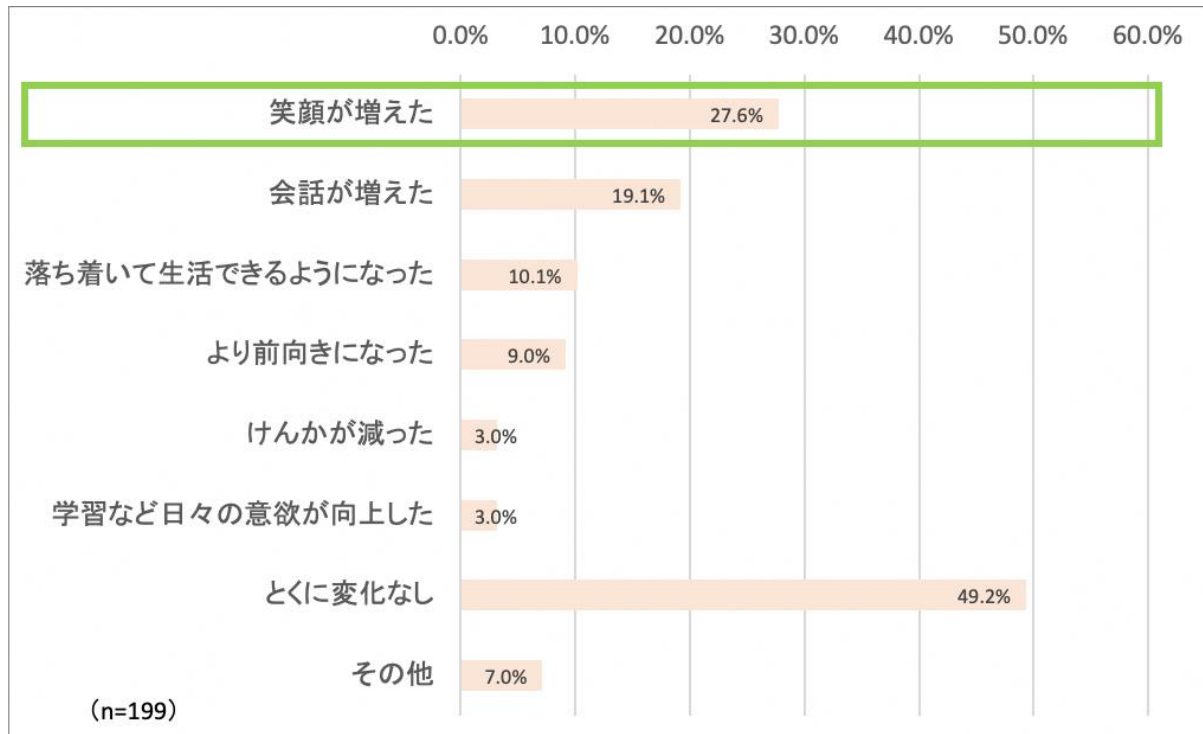


変化あり*
49%

(2022年度：58%)

*「その他」、「とくに変化なし」以外

約49%が子どもの態度に変化ありと回答している。具体的には、「**笑顔が増えた** (27.6%)」、「**会話が増えた** (19.1%)」の回答が多い。



「その他」の回答例：


- 支えてもらっているということを実感し感謝する気持ちが生まれた
- 宅食が届いたらいつも子どもと開きます。「わあ〜こんなものもある！あんなものもある！すごい！」と、楽しみに子どもも喜んでいきます。

直接アウトカム (3) 余剰時間が増加する

増えた時間

保護者
家庭

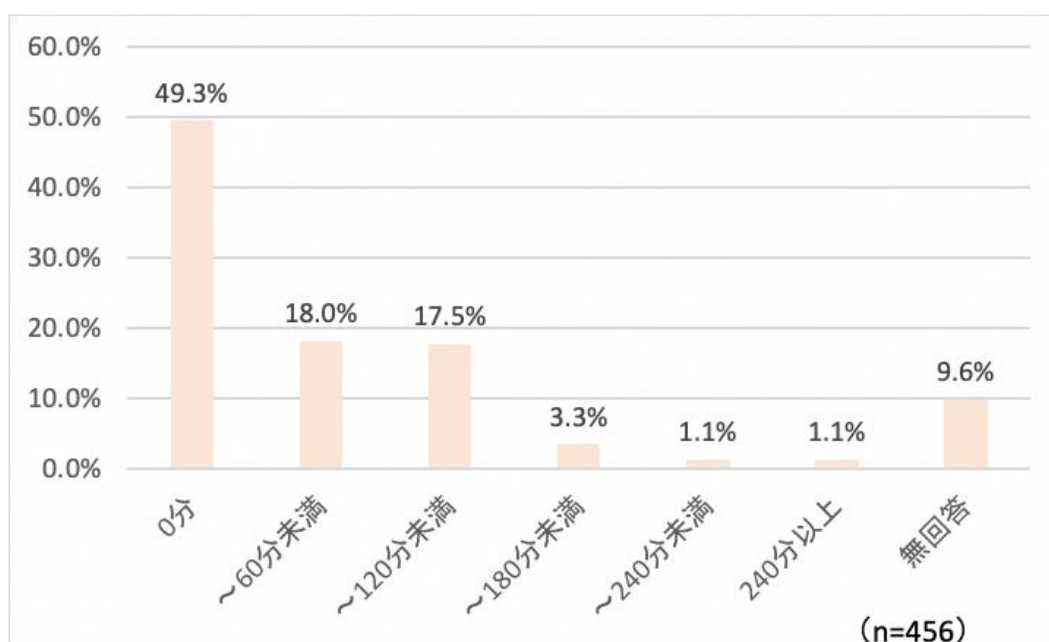
こども宅食を利用したことにより、これまで買い物や調理に使っていた時間が減るなどして一か月のあいだに自由な時間は増えましたか。増えた場合はどれくらいになりますか。



増えた*
41%

(2022年度：35%、約31分)
*「0分」、「無回答」の人以外

約41%の人が宅食の利用により時間を節約できたと回答している（平均節約時間：28分）。

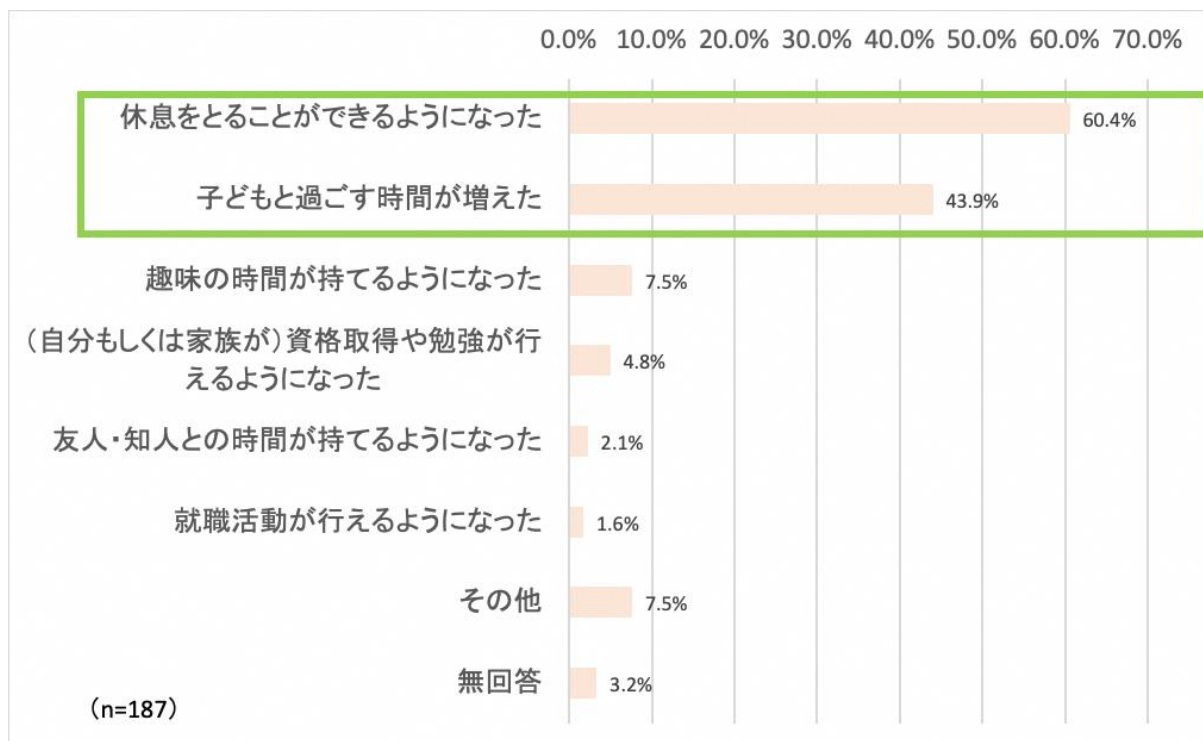


追加でできたこと

保護者
家庭

(余剰時間が増えた41%の方への質問)
その時間を利用して、何かしたことはありますか。

時間が節約できたことで、「**休息をとることができるようになった** (60.4%)」、「**子どもと過ごす時間が増えた** (43.9%)」と回答する人が多い。



「その他」の回答例：

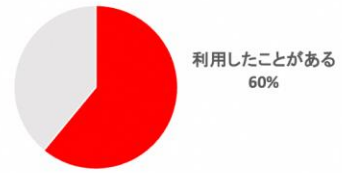
- 食事の時間が少し早くなった分、寝るのが少し早くなった。
- PTAの活動ができるようになった。
- 他の家事にあてられるようになった。

体験の時間の増加

保護者
家庭

子ども

「体験の機会」を利用したことによる、お子さんやご家族の変化についてお答えください。

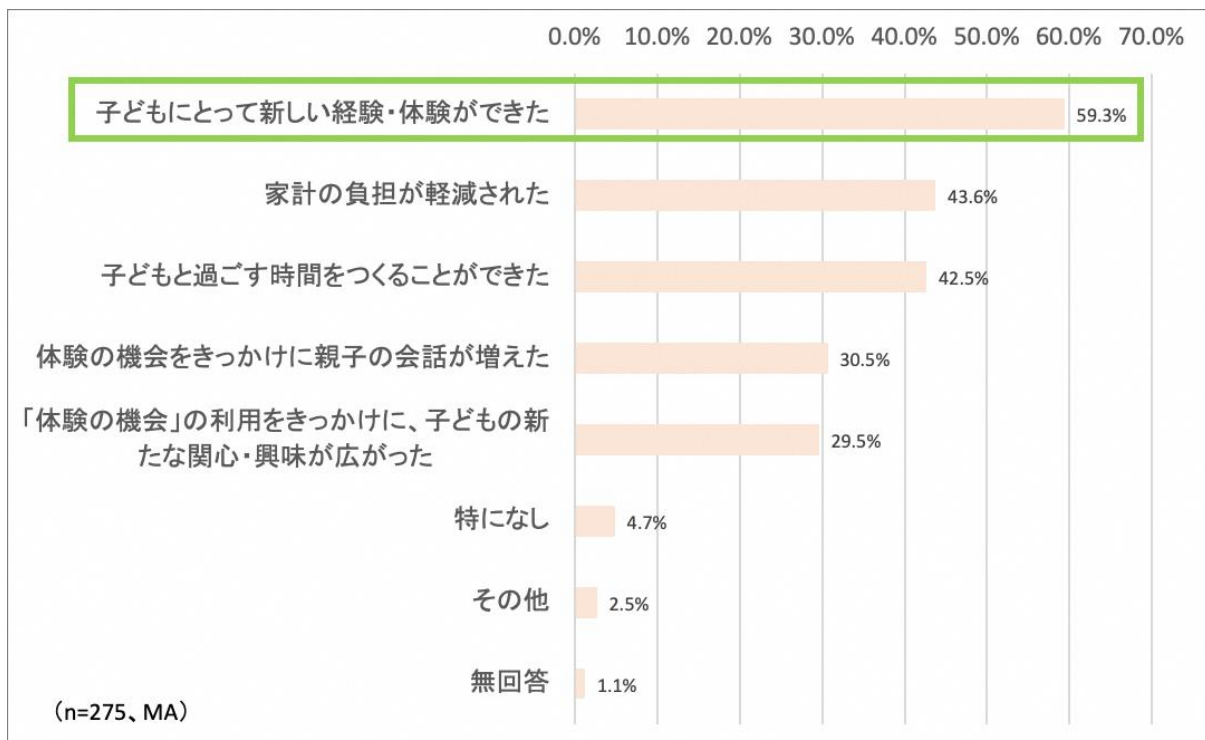


前掲（p.8参照）のとおり、子どもの体験や所有物において、利用世帯の57%に欠如がみられる。

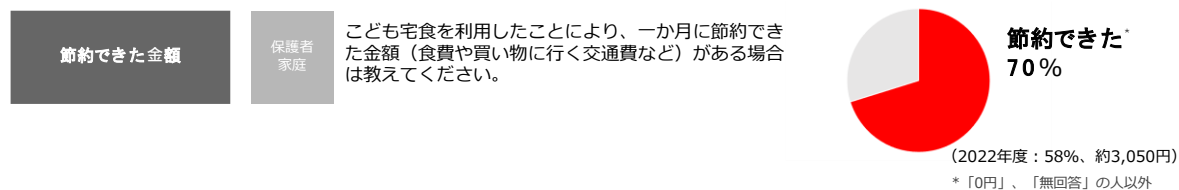
本プロジェクトでは、宅食の利用によって生まれた余剰時間が、親子で過ごす体験の時間につながるよう、絵本や玩具、スポーツ観戦やコンサートチケットなど、親子の体験の時間の創出につながる、様々な「体験の機会」の提供を行っている。アンケートでは回答者の約60%が本プロジェクトが提供している「体験の機会」を利用したことがあると回答している。

利用した世帯に子どもや家族の変化について聞いたところ、「子どもにとって新しい経験・体験ができた」、「家計の負担が軽減された」という回答が多かった。

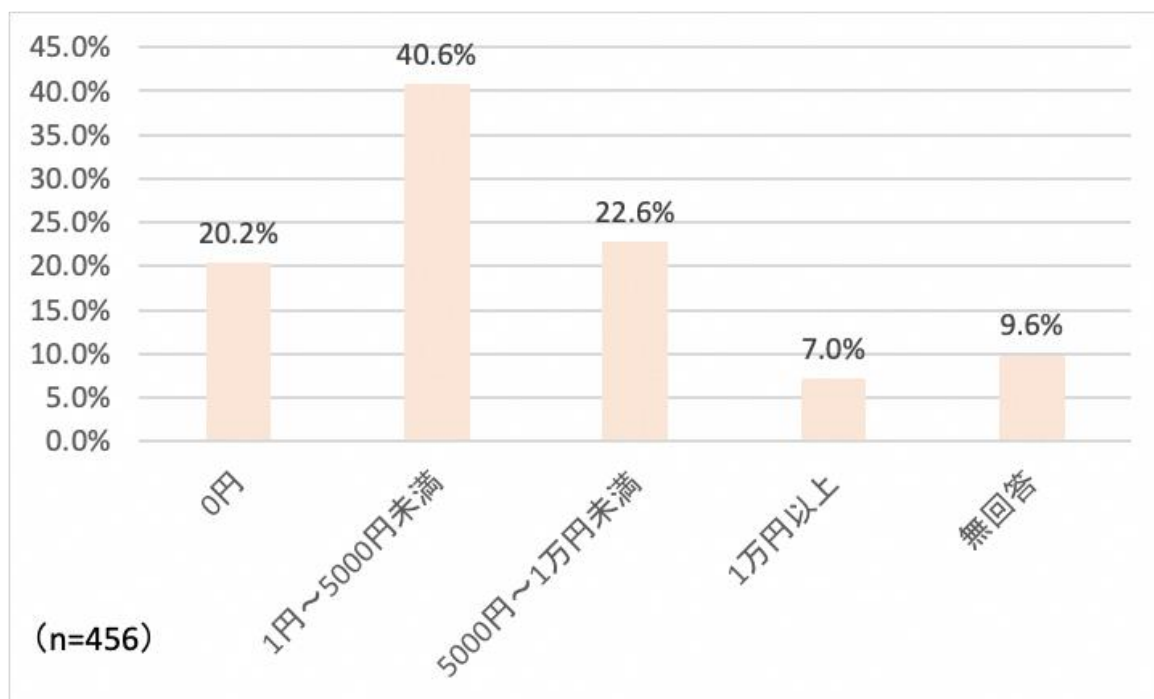
「体験の機会」の提供を通して、利用者とは多様な接点が生まれることにより、ご家庭での悩みの吐露や相談につながり、利用者とのコミュニケーションやさらなるサポートにつながるケースも生まれてきている（インパクト・レポート概要版P.34参照）



直接アウトカム（4） 食費の負担が軽減される



約70%の人が宅食の利用により食費を節約できたと回答している（平均節約金額：3,351円）。食費の負担軽減に一定程度貢献したといえる。



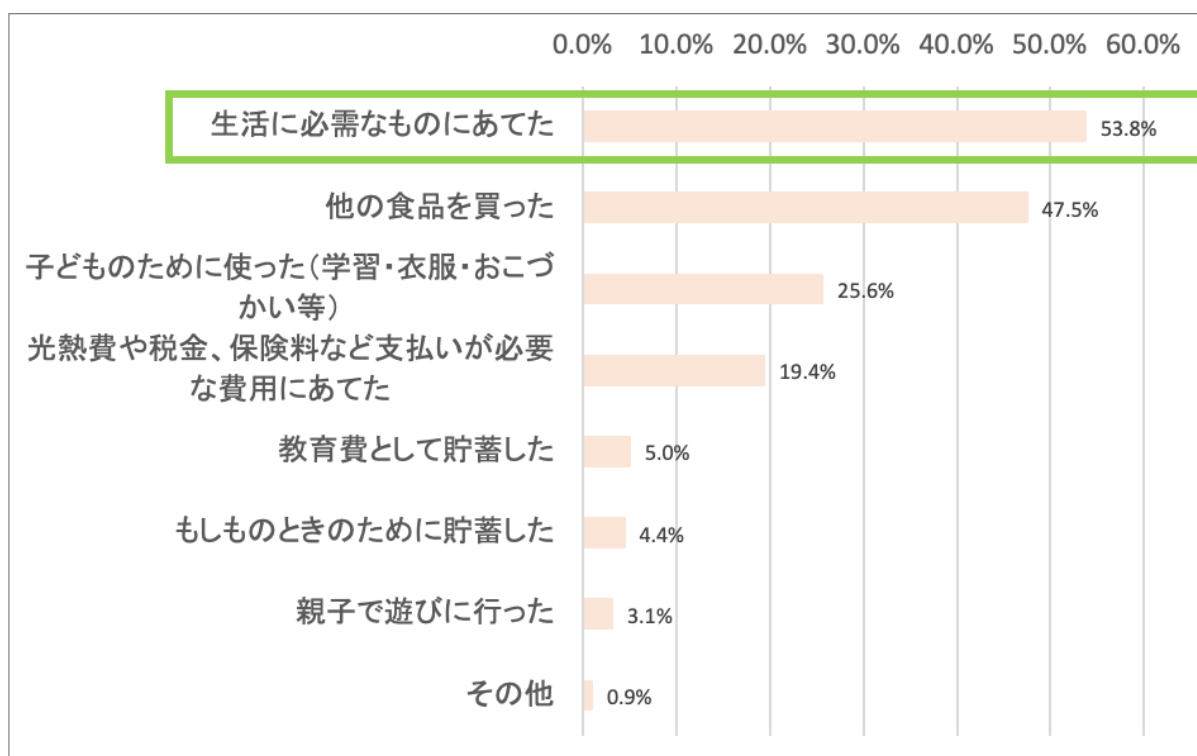
追加でできたこと

保護者
家庭

(節約できた70%の方への質問)
節約したお金でどのようなことができましたか。

食費が節約できたことで、「生活に必需なものにあてた (53.8%)」、「他の食品を買った (47.5%)」と回答する人が多い。

普段購入しない、嗜好品や少し高価なものを購入することができたという回答も多く、それが**気持ちの豊かさや、安心感など、気持ちの変化にもつながっている**様子も伺える。



「その他」の回答例：

- 多少良い食材などを購入できた。
- 外食ができるようになった。
- 子どものために使えるお金が捻出できたことで、少し気持ちにゆとりができたことで、ストレスも軽減された。

直接アウトカム（5） 社会資源を知っている、利用している

支援サービスを知っている、
利用している割合の変化

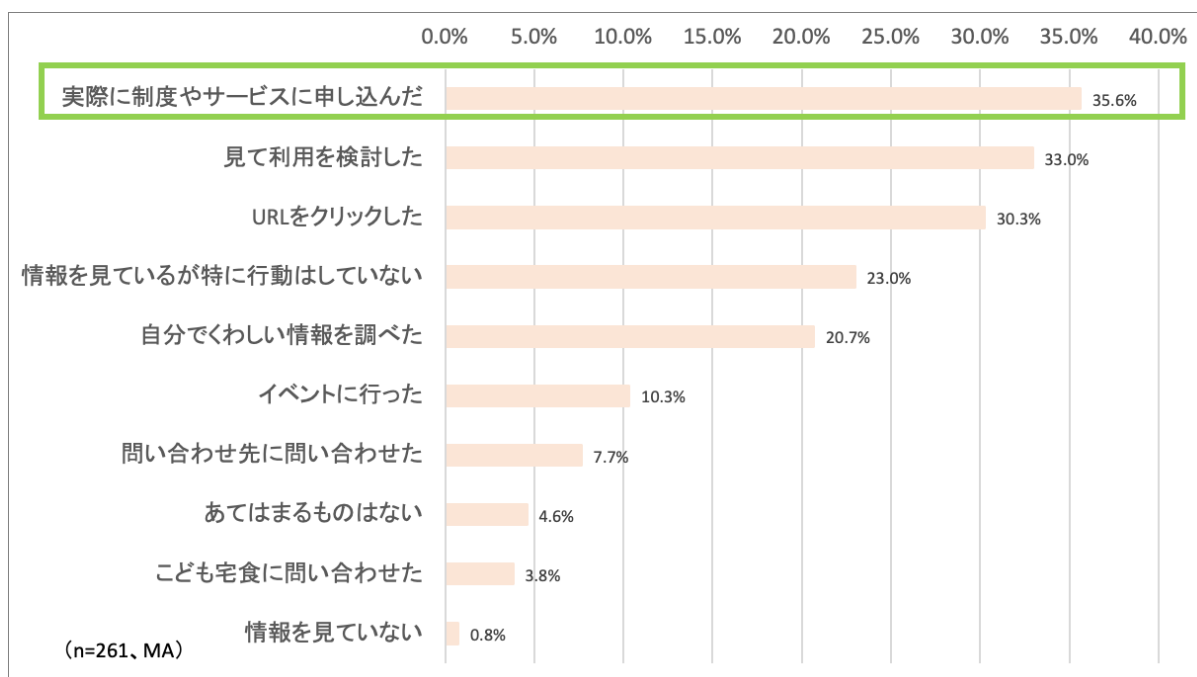
保護者
家庭

こども宅食事務局からLINEにて、様々なお役立ち情報をお届けしてきました。お役立ち情報を見てからのご自身の行動としてあてはまるものを全て選んでください。

本プロジェクトのLINEでの情報配信を受けて、利用者は以下の様な行動をとっている。

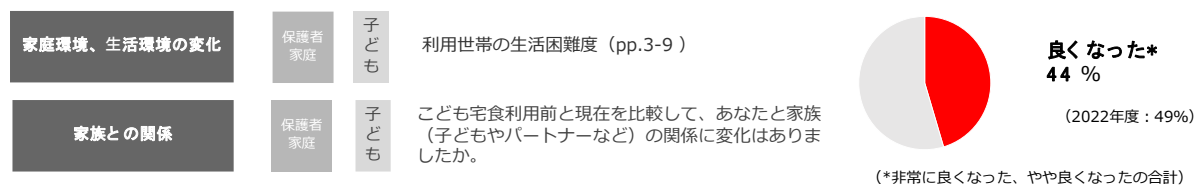
「**実際に制度やサービスに申し込んだ**（35.6%）」と回答する人が最も多く、社会資源へのアクセスや利用につながっていることが伺われる。

宅食からの情報提供により、実際に地域資源を活用する事例も生まれてきている（例：制服・学用品リサイクルショップや古本屋の利用）。



※2023年3月2日～22日に実施したLINEでの利用者アンケートより。

中間アウトカム（1）家族の関係がよりよくなる



こども宅食利用前との比較では「**家族との関係**」が良くなったと回答したのは約44%である。親の気持ち、子どもの態度の変化が影響していると考えられる。

